

令和7年1月27日

上牧町長 今 中 富 夫 様

町内に在する片岡^{じょうあと}城跡の活用に向けての答申

上牧町片岡城跡活用検討委員会
委員長 中 井 均

上牧町北西部、下牧地区に所在する片岡城跡は、周辺の宅地開発が進むなかであって、曲輪、土塁、堀切が今もなお見事に残されており、歴史的価値の高い貴重な中世城跡です。

片岡城は、標高90メートルの小高い丘陵上に築かれた山城で、眼下に葛下川が流れ、東は田原本・桜井方面、西は大阪方面に向かう街道に接する位置にありました。

片岡城は16世紀初めに片岡国春によって築城されたと伝えられ、永禄12(1569)年に松永久秀との戦いにより落城し、その後松永方の城として改修・整備されましたが、天正5(1577)年に織田軍の攻撃を受け、その後廃城となりました。

織田軍のなかでもとりわけ有力武将である明智光秀や細川藤孝・忠興、筒井順慶と激しい戦いを繰り広げた城でした。織田軍が片岡城攻めを行った際の様子が記された『信長公記』によれば、片岡城には「天主」と呼ばれる建物が存在したことが記述されています。これは信長が安土城に天主を築くのとほぼ同じ頃の出来事ということになります。

また、城跡では瓦片も見つかっており、当時、瓦葺きの建造物があったことがうかがえます。

このように、片岡城は上牧町の戦国時代を物語っているだけではなく、織田信長の天下統一の戦いの過程で登場する、歴史上極めて重要な城であるとされています。

片岡城跡へのアクセスについては、最寄りの公共交通機関として奈良交通バス停の下牧南口やJR和歌山線畠田駅があり、いずれも徒歩10分程度です。しかも、標高差が少なく、気軽に訪れることができます。

上牧町としてこの片岡城跡の歴史的価値の把握や保存及び活用についての方向性を定めるため、本委員会に諮問されました。そこで本委員会はこれを受けて協議し、結論を得たので、以下のように答申いたします。

答 申

【発掘調査及び文献調査の実施】

片岡城跡については、昭和59(1984)年に上牧町教育委員会が発刊した『片岡城跡－中世山城の研究－』の報告書があります。しかし、残念なことに、この報告書は発掘調査に基づいて書かれたものではなく、不明な点が少なくありません。

そこで、当委員会としましては、片岡城跡の実体(築造年代・規模・構造・性格など)を把握するため、発掘調査及び文献調査等の総合的な学術調査を実施していただきたく存じます。そして、この事業は学術的意味だけではなく、同時に文化財の保存とその活用による地域の活性化にも大いに供することと考えます。

また、調査によってその価値が明らかになり、貴重な文化遺産として後世に伝えねばならないものであれば、町や県、国による史跡指定を考えねばなりません。なお、そのときには、総合調査(5年程度)となり、この活用検討委員会とは別に、学識経験者等による委員会を組織する必要がありますが、史跡上牧久渡古墳群とともに、ふるさと上牧の大切な歴史遺産のひとつとなり得ることが期待できます。

【眺望の整備】

片岡城跡は、馬見丘陵北端の標高90m という最も高い所に存在し、眼下には葛下川とその流域、北西には信貴山も望むことができるという非常に眺めの良いところにあります。しかしながら、残念なことに主郭は周辺の竹や樹木の繁茂により、葛下川沿いや信貴山方面が見づらい状態になっています。なお、JR畠田駅方向に「のぼり旗」も設置していただきましたが、依然として見にくい状態が続いています。主郭周辺地権者に協力依頼を行い、山城としての眺望の確保がまず必要かと思われます。

【維持管理】

町の予算により、年に2回主郭部分の草刈業務委託を行っているとのことですが、夏場はすぐに草が繁茂している状況です。今後は片岡城跡主郭のみならず、空堀や曲輪も含む主要部についての草刈等を定期的に行う必要があります。

それに加えて、年に数回、草刈り作業をボランティアや地域住民等に協力を依頼することも必要であると考えます。

【地籍調査】

片岡城跡周辺の地籍調査が実施されていません。町や県、国による史跡指定を目指すには、土地所有者の同意が必要になりますので、片岡城の保存・活用(発掘調査、眺望整備、維持管理)を進めて行くにあたって、片岡城跡周辺の地籍調査を早急に行っていただく必要があります。

【活用】

町民の中には、片岡城跡を知らない人がおられるかも知れません。もしそうだとすると、今後、城跡の認知度を高めるべく情報発信を行い、地域の方々にもっと知っていただくと共に、誇りにしてもらい、郷土愛の醸成に繋げることが重要だと思います。上牧町歴史ガイドボランティアの会による片岡城跡を中心とする歴史遺産の案内や、また、学校教育・社会教育と連携し、片岡城跡を活用していくことが重要です。一例として、令和5年度に教育委員会が制作された絵本『かんまきおしろのおはなし』を本の世界だけでなく、現地に課外授業で訪れてもらうことを勧め、より一層郷土愛が高まるよう仕向けるのも重要かと思われます。

町外のかたに片岡城跡に訪れていただくためには、駐車場の確保も必要です。現在は、片岡城跡から徒歩5分圏内にある町施設「ほほ笑みサロン片岡」に駐車するか、JR畠田駅前(民間有料)に駐車するしかありません。

また、片岡城跡周辺の道案内については、ここ数年でかなり充実してきましたが、最寄り駅のJR畠田駅及び最寄りのバス停の下牧南口からの案内表示がありませんので、導線として道案内・サインが必要と考えます。

そのほかに、近隣の城跡とも連携していく必要があると考えます。一例として、全国各地で取り組まれている「御城印」を制作し、活用を図っていくことも有益です。

上牧町内ウォーキングルート「かんまき笹ゆり回廊」の中のひとつとして、片岡城跡を様々なイベントの場として活用していくことも、町民の郷土愛の醸成に繋がっていくと考えます。

発掘調査、眺望の整備、維持管理、活用等については、本委員会で方向性を示したものの、今後はそれぞれ適宜、学識経験者や町民を含めた委員会を設置することにより、より一層きめ細やかな立案をもとに片岡城跡の整備を行うことが必要となるでしょう。

以上

最後にこのことを十分ご理解され、今後、上牧町の歴史資源として、片岡城跡の整備及び活用に向けた着実な取り組みを切に期待します。

【上牧町片岡城跡活用検討委員会 開催状況】

回	開催日時	審議内容
第1回	日程:令和6年 5月24日(金) 時間:午後1時30分～4時	・委員委嘱又は任命・委員長選出 ・検討委員会の趣旨・目的 ・これまでの文化財行政の取組について ・現地視察
第2回	日程:令和6年 7月 2日(火) 時間:午後3時30分～5時 (片岡城跡講演会后)	・片岡城跡の呼称について ・片岡城跡の活用の方向性について
第3回	日程:令和6年 8月19日(月) 時間:午後2時～4時	・片岡城跡の呼称について ・片岡城跡の保存について
第4回	日程:令和6年10月30日(水) 時間:午後2時～4時	・答申に向けて ・片岡城跡の活用について
第5回	日程:令和6年11月25日(月) 時間:午前10時～11時	・答申総括
第6回	日程:令和7年 1月27日(月) 時間:午後2時～(予定)	・答申

【上牧町片岡城跡活用検討委員会 委員名簿】

氏 名		分 野	役 職
1	委員長 中井 均 ナカイ ヒトシ	学識経験者	滋賀県立大学 名誉教授
2	塚口 義信 ツカグチ ヨシノブ	学識経験者	堺女子短期大学 名誉学長
3	岡寺 良 オカデラ リョウ	学識経験者	立命館大学 文学部 准教授
4	蘆畑 昭和 アシハタ アキカズ	一 般	一般公募町民
5	東 充洋 ヒガシ ミツヒロ	一 般	一般公募町民
6	平井 義規 ヒライ ヨシノリ	一 般	一般公募町民
7	澤井 功雄 サワイ ノリオ	一 般	下牧自治会 代表
8	興梠 隆男 コオロギ タカオ	一 般	片岡城址盛り上げ隊 代表
9	山崎 稔 ヤマサキ ミノル	一 般	上牧町歴史ガイドボランティアの会 会長
10	向井 多喜男 ムカイ タキオ	一 般	上牧町社会教育委員 代表
11	上西 善吉 ウエニシ ゼンキチ	一 般	地元地権者
12	吉村 邦昭 ヨシムラ クニアキ	一 般	地元地権者
13	竹中 亮造 タケナカ リョウゾウ	町議会代表	上牧町議会議員
14	安中 和 ヤスナカ カズ	町議会代表	上牧町議会議員
15	中本 義雄 ナカモト ヨシオ	町職員	総務部 企画財政課長
16	細川 夏人 ホソカワ マサト	町職員	都市環境部 まちづくり推進課長

